

2021/11/17

(有)山形川西産直センター 平田勝越

はじめに、本部会への提案内容について賛成させていただきます。

今年産米の価格下落の現状を見る限り、200万トという6月末在庫の目標は市場にマイナスのメッセージをもたらしたのではないかと懸念しておりました。しかし調整保管15万トの対策を準備いただき、5年6月末の目標を実質181～185万トとしてあることには、安堵の感を持っています。一方でこの調整保管の手法は完全に在庫を隔離するものではなく、いずれ市場に戻ってくるという意味で「時限爆弾」との表現も聞かれます。根本的には、我々産地が、自らの為に自らの判断で生産量を調整することが必要と思います。選択肢の一つとして飼料用米が大きな効果をあげていたことは言うまでもありませんが、そこには非常に多額の公費が投入されてきました。食糧安全保障の面では、即座に主食用米に転換できる飼料用米は有効なのかもしれませんが、それにしてもコストが高すぎる。我々の顧客である国民・消費者が賛同してくれるか、不安が拭えません。耕作農地の半分以上を転作しなければならない時代が目前になり、中核担い手であればあるほど、大規模生産者であればあるほど、地域の特性に合った生産性の高い転作メニューを開拓しなければなりません。戦略的に重要な品目に誘導することも必要かもしれませんが、生産性の観点で多様な取り組みを支援することもまた重要な気がします。

以上です。